

平成 28 年度 横須賀市国民保護協議会 開催結果

- ◆日 時 平成 29 年（2017 年）3 月 7 日（火）14:30～15:15
- ◆場 所 災害対策本部室
- ◆出席者 横須賀市国民保護協議会委員（別添出席者名簿のとおり）
危機管理課：小貫課長、村松課長補佐、石川

◆概 要

1 開会

危機管理課長より開会のあいさつ

2 市長あいさつ

- ・ここ数日は北朝鮮のミサイル発射や国際空港での事件など、不穏な状況が発生しており、当面は十分な注意が必要な状態と考えます。
- ・本市ではウィンドサーフィンのW杯の開催を予定しており、また、横浜でのラグビーW杯、さらには2020年には東京オリンピック・パラリンピックを控えており、本市もトレーニングセンターの開設や事前キャンプの誘致を計画しているところです。
- ・各機関におかれても十分に情報収集等を行っていただき、また、関係機関での共有と連携を図り、万が一の事態に備えていただきたいと思います。

3 報告事項

(1) 平成 28 年度の国民保護訓練について

平成 29 年 1 月 16 日に実施した横須賀市国民保護訓練の実施結果について、投影資料に基づき、事務局から報告を行った。

(2) 最近の国民保護に関する情勢について

今年度の国民保護訓練が10回という節目の回であったことと、ウィンドサーフィンW杯の開催を控えているため、宮坂委員から講話をいただいた。

内容については以下のとおり。

防衛大学校 宮坂教授「訓練総括および大規模イベントを控えて」

横須賀市国民保護訓練は平成 19 年度に第 1 回を実施し、今年度の実施をもって 10 回目となった。このように 10 年連続で訓練を実施している自治体はなく、訓練想定もあらゆるものを想定し、訓練形式も工夫している。是非とも今後も継続してもらいたい。

さて、今後市内でのウィンドサーフィンW杯や、国内各地でのラグビーW杯、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックが開催されるが、特にオリンピック開催にあたっては数々の問題点が議論されている最中である。世界各国から人々が参加し、世界から注目を集めるということで、何に備えるべきかを考えてもらいたい。

まず一つは、国際紛争持込み型テロである。ミュンヘンオリンピック開催中にイス

ラエルの選手が殺害された事件といったものである。

つぎに、オリンピック便乗型テロ。ここ数年日本国内でもトルコ人とクルド人のトラブルが発生している。このように民族対立が持ち込まれるケースであり、日本国内にも該当民族が居住していることを知っていただきたい。更に、この民族対立はオリンピック等のイベントがなくとも持ち込まれるケースがあり、イラン対サウジアラビアに発する 1988 年の東京・有楽町のサウジアラビア航空事務所爆破事件、インドとシク教過激派の対立による 1985 年の成田空港でのエアインディア機手荷物爆破事件がある。

そのほかには、アトランタオリンピック記念公園爆弾テロの例に見るオリンピック妨害型テロがある。また、先日のマレーシアでの VX ガスでの暗殺事件も、既に日本ではオウム真理教が大阪で会社員殺害事件として起こしている。

このようなことから、テロ・危機管理のもう 1 つの視点として、関係機関には内外での情報収集・分析の優先順位、入国管理・税関への反映、訓練想定にも取り入れていただきたい。

4 閉 会

危機管理課長から閉会のあいさつ